

法政大学廣瀬副学長からの評価とアドバイス		評価とアドバイスを踏まえた対応の方向性
レジュメ項目	発言の要旨	
<p>1. 評価の仕組みについて</p> <p>(ア) 制度化された評価に問われる課題 ①評価指標の自己目的化をどう防ぐか ②定性的な自己評価の精度、信頼度をどう上げるか ③評価の自己目的化、形式化をどう防ぐか</p> <p>(イ) 理念と指標の結びつきを再確認する仕組み ①指標を「指標によって示そうとした質的な内容」を結びつけて提示 ②理念の明示と行動と理念の適合性確認を意識的に行っているかを点検</p> <p>(ウ) 県民の観点からの評価を意識する仕組み ①評価項目が県民にとって何を期待されている項目かを明示する ②外部評価者は明示された「県民の観点」に照らして評価結果を示す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会の取組の目的や効果を伝えるための手段として、評価の仕組みを活用することが必要。 ・ 外形的な活動実績だけを評価指標とすることは本質的でない。そうならないようなフォーマットづくりが必要。 ・ 評価指標として、議会活動計画の基本方針をブレイクダウンするという工夫が必要ではないか。 ・ ポイントとなる事項だけでも良いので、審議過程において、どのような論点構成がなされ、どのように施策等に反映されたか、されなかったかといった評価を行うことが重要。 ・ 理念を示した上で、その理念を踏まえた評価を行い、改善につなげていくことができるフォーマットづくりが必要。 ・ 評価することによって県民に何を伝えることができているかという観点からは、不十分な点がある。 ・ 取組実績による評価だけでは、議会での審議等によって、県民にとってどのようなメリットがあったのかが読み取り難い。 ・ 評価の最終的な読者は県民であり、「開かれた議会」とは、「情報を隠さない」というだけでなく、「県民に対してメッセージを伝えていく」という観点が重要。県民にメッセージを伝える手段として評価制度を活用することが必要。 ・ 多くの県民にとっては、何のために議会活動が行われているのか自明でない。議会活動の目的に照らした評価を行うことが必要であり、評価の視点を明文化することが重要。 ・ 県民の観点や評価の視点を明文化し、一定のフォーマットを作成することは、誰が外部評価者になっても共通性のある評価ができることに資するものであり、評価制度自体が議会改革のエンジンとなり得る。 	<p>「4年間を通した議会活動の評価及び次期改選後議会への提言」の策定に当たっての方向性</p> <p>① 4年間を通した議会活動の評価 議会活動計画に基づき、 ・「<u>議会活動計画の仕組み</u>」(評価サイクル・評価の手法) ・「<u>議会活動計画に基づく取組</u>」 の2項目について評価を行い、アドバイス等を踏まえ、課題を整理する。</p>
<p>2. 平成27年度から平成30年度までの取組結果について</p> <p>(ア) 取組実績については十分に行われていることが確認できる ①実行した事項を一覧できるように列挙することは必要 ②「何を実行したか」という点では期待水準を満たしたのではないか ③各取組内容の期待水準を満たせたかどうかについては読み取れない</p> <p>(イ) 取組と委員による評価点の結びつきは読み取りにくい ①質的な評価(各評価者の主観性をもった定性的な評価)は重要だがその判断材料の説明が必要 ②その際に評価の基準となる尺度(理念を現実化できた程度を評価する物差しは何か)を明示する必要がある ③評点の変化が何によるものかが分からない 1. 評価者の変化(交替) 2. 取り扱った事項(議案)の変化 3. 審議水準の変化</p> <p>(ウ) 論点の可視化が不足しているために取組実績と評価結果が結びつきにくかったのではないか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4年間を通した議会活動の計画を立て、それを実行していったという実績は、評価できる。 ・ 評価の仕方については、4年間の取組を一覧できるように整理することは必要であり、何を実行したかを公表する観点では期待水準を満たしている。 ・ 取組内容の期待水準を満たせたかどうかは読み取り難い。 ・ 常任委員会の活動評価の評点が何を意味しているのか分かり難い。評点の推移も、委員の交代や紛糾する論点があったことによるものかもしれない。 ・ 評価の基準や観点を示した上で評価をし、県民に公表していかないと、評点やその推移の意味が見えてこないため、基準等のない評点の仕組みは見直す必要があると考える。 ・ 評価者側のフォーマットとして、評価の基準を準備しておくことが重要。 ・ (再掲) ポイントとなる事項だけでも良いので、審議過程において、どのような論点構成がなされ、どのように施策等に反映されたか、されなかったかといった評価を行うことが重要。 	<p>②次期改選後議会への提言 主として、議会活動計画の仕組みの改善事項として、 ・<u>県民にメッセージを伝える手段として評価制度を活用すること</u> ・<u>県民の観点を踏まえた評価基準を明確にすること</u> ・<u>議会活動計画の策定段階から、取組内容の目的や期待する成果等を明確にすること</u> について検討を行うことを提言する。</p>